

宮城



パンデミックの終息と歴史からみる業界の今後

宮城県屋外広告美術協同組合 副理事長・広告景観委員長 新崎 博
(日の丸ディスプレイ仙台株式会社)

依然として影を落としているコロナ禍に加え、外国に生産を依存したしわ寄せによるウッドショックに半導体ショック、更にロシアのウクライナへの軍事進撃による資材・エネルギー価格の高騰等、全ての業界に影響が及ぶ苦難の状況に我々はいると感じる。2020年初頭から始まったパンデミックだが、人々の価値観や生き方を大きく変えて来た。この3年間、様々な事を考えさせられたものである。考えさせられた事の一つに、我々が集う「看板業界」がある。事業の革新を求められる中、看板屋の本質を見出すべく業界の歴史を振り返り見た。

平安時代に使い始められたとされる商店の看板であるが、当時は干物や野菜などの商品を軒先に直接吊るす「現物看板」であった。江戸時代に入ると木板を掘り、漆などで文字を書き作られるようになり、後に浮世絵などの絵も使われるようになる。油を光源とした「行灯」もこの時代に多く使われ始めたようだ。明治時代になると漆の他に絵具などが使われ、カラフルな看板へと進化。大正時代には様子が少し変わり、主材料であった木に加えトタ

ンやブリキが使われ始めた。ここまでは、板材や和紙に絵や文字を書くのが主流で、業界の先人達が営んできた看板屋の原型と言える「書き文字屋」である。昭和に入ると看板づくりの進化が加速する。まず、文字を書く相手が板材から、自動車、シャッター等と町の商店や企業の拡大と共に多様化し、同時に公共設備やインフラの発展と共に橋梁やガスタンクにも書き文字が重宝された。

次は材料の変化である。木製の面板の対候性、耐久性、重量等に伴う短所を補う「アクリル」の登場である。当初は書き文字屋も塗料を変えアクリル板に文字を書いていたが、アクリル加工需要が増えるにつれ、書き文字に変わリアクリルをマシンで切る「切り文字」が貼られ、行灯看板や袖看板もアクリル製に置き換えられた。そして、書き文字とアクリル切り文字の小ロット生産と言う短所を補う形で、シルクスクリーン印刷やユニライトと言った加工方法が採用されて、精度や美しさもレベルアップした。しかし間もなく、加工時間や製造コストの短所を払拭する、塩

ビシートやインクジェット印刷に取って代えられた。また、屋外対候性に弱点を持つアクリル看板は、スチール、ステンレス、アルミ、複合板に置き換えられ、看板の大型化に伴い、鉄骨加工なども手掛

書き文字から始まったと言っても過言ではない看板の業界は、機械化と製造技術を習得しながら変化を成してきた。

行灯看板に使われてきた光源も同じで、油や蠟燭から、電球、蛍光灯、ネオンと進化し、現在ではLEDが大半を占めるようになった。

多くの産業は、時代の変化と共に他業界に取って代わられ衰退してきたのだが、我々の業界は衰退せずに自ら対応し進化を遂げてきた。

我々の組織の目的の一つに「地位向上」がある。長年掲げている目標ではあるが、掲げ続けているという事は、達成していないという反面もあると言える。組合員の増強時に「組合に入るメリットは何ですか?」と聞かれることがあ

り、相手を納得させられる明確な回答が出来ないのは小生だけの経験ではないはずだ。我々は良く器用貧乏と言われ、何にでもそつなく対応できる業界である。ネガティブに捉えられがちである「器用貧乏」だが、「変化に対応する」と考えれば強みにもなり得る。パンデミックの終息も見え、新しいライフスタイル、新しい商売の方向にさらに進む。業界の進化の速度が落ちてきている今こそ、我々も先人たちのように業界を進化させ、「組合に入るメリット」を強調できるようにして行く事が、自社と業界の発展に大切であると感じた次第である。

第31回屋外広告士試験(仙台会場)実施状況

令和4年10月16日に全国一斉に「屋外広告士試験」が実施され、仙台会場で65名(受験申込72名)が、エルパーク仙台5階セミナーホールで受験した。12月16日に合格発表があり、13名の方が合格されている。

当日の試験運営は「宮城県屋外広告美術協同組合」の佐々木理事長を総括監理者に、他に地区連鈴木専務理事と地区連事務局秋葉、高橋の2名が行い無事終了している。

R4.10.16 受験風景



withコロナという生活はまだ続いていく気配が濃厚であるが、受験者の方が集中して当日望める環境があれば、条件の良い公共施設を確保したい。

なお、「第32回屋外広告士試験」の受験に関する情報は、春に公開されるので各県組合事務局や日広連HP等を確認してご対応いただければと思う。

いはずだ。我々は良く器用貧乏と言われ、何にでもそつなく対応できる業界である。ネガティブに捉えられがちである「器用貧乏」だが、「変化に対応する」と考えれば強みにもなり得る。

パンデミックの終息も見え、新しいライフスタイル、新しい商売の方向にさらに進む。業界の進化の速度が落ちてきている今こそ、我々も先人たちのように業界を進化させ、「組合に入るメリット」を強調できるようにして行く事が、自社と業界の発展に大切であると感じた次第である。